

BL 再編・統廃合の進捗状況 Status report of BL refurbishment

伊藤 健二・KEK-PF

PFでは、2005年度に行われたPFリング直線部増強に基づきビームラインの再編・統廃合を進めてきました。この間のビームライン戦略については前回の記事にまとめさせていただいておりますが、直線部の最大有効活用がこの間のビームラインの再編・統廃合においては重要なポイントでした。2005年4月の実験ステーション数は72でしたが、2011年10月現在52となっています。この数字は、2005年のPFレビュー委員会で推奨されたPFに適切な実験ステーション数30-40の数字までには溝がありますが、2011年10月6、7日に開催されたPF-SAC(Science Advisory Committee)ではPFのBL再編・統廃合の進捗状況を評価していただくことができました。

PFではこれまでのビームライン再編・統廃合を第1期と位置づけ、これ以降第2期計画としてさらに整備計画を進めていく方針です。その手始めとして、最後の短直線部を利用してSGU(短周期アンジュレータ)を光源とするビームライン新BL-15の建設を進めます。5つの中長直線部については、VSXに特化したビームラインの整備を進めてきましたが、挿入光源および実験装置まで手当てすることが出来ていませんでした。これらについては、外部資金などもつぎ込み、今後2-3年以内に整備を図っていくこととなります。そのほか、いくつかのビームラインで統廃合について検討を始めております。

ビームラインの再編・統廃合はPFを最大限に活用することを目的としています。PFスタッフの適切な配置、予算の効果的な集中によりアクティビティーの最大化を図ることを目指すものです。したがって、現在あるいは直近ではなく将来を見据えた議論が求められます。PF-SACでの議論も踏まえて、現在52ある実験ステーションを2、3年後には45程度にまでにして行くことが必要であると考えています。厳しい議論もあるかと思われそうですが、対象となるビームラインを使用されているユーザー、該当ユーザーグループおよびメタユーザーグループ、さらにはPF懇談会メンバーの方々にご理解とご協力をお願いします。